

宮城第一高等学校校舎等改築事業に係る追加説明資料

- 大規模事業評価調書(抜粋)
- 追加説明資料
 - ・ 耐震補強工事の内容について
 - ・ 技術的な面での老朽化の程度について
 - ・ 校舎の築年数からみた宮城第一高等学校校舎の位置付けについて

平成29年11月1日(水)
教育庁 施設整備課

	<p>○ 男子生徒から要望の多い野球部活動は、練習場所が確保できないため、部を開設できていない。</p> <p>○ このため、平成28年度に取得した税務大学校仙台研修所跡地を、今後、第2グラウンドとして整備する計画としており、狭隘化解消に向けた対策を進めている。また、今回の改築事業では、校庭グラウンドを再整備することにより、野球を含めた運動部の練習が可能な広さを確保する計画である。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>○ 老朽化の著しい校舎の改築により、施設の利便性、生徒・教職員等の安全性が確保される。</p> <p>○ 共学校としての施設環境を改善することで、男女いずれの生徒にも魅力的な学習環境が整備される。</p> <p>○ 当該校は平成20年度より単位制を導入し、習熟度別授業・少人数授業を展開するなど独自の取組を行っている。改築に伴い、この特色がより活かされる環境を整備することで、学習効果が向上するとともに、生徒募集の強みがさらに発揮され、進学拠点校としての位置付けがこれまで以上に強化されることが期待される。</p>
<p>これまでの取組状況</p>	<p>平成18年 耐震補強工事の実施</p> <p>平成20年 男女共学化対応及び耐震補強工事の実施 男女共学化・宮城第一高等学校に名称変更・単位制移行 美術館敷地を借用しテニスコートを整備（共学化による狭隘対策）</p> <p>平成22年 新県立高校将来構想策定（計画期間平成23～32年度）</p> <p>平成24年 災害復旧工事（東日本大震災）</p> <p>平成26年 宮城野高校グラウンドを借用することについて覚書締結（共学化による狭隘対策）</p> <p>平成28年 第2グラウンド用地取得（共学化による狭隘対策）</p>
<p>今後のスケジュール</p>	<p>平成29年度 大規模事業評価</p> <p>平成30年度 プロポーザル方式による設計事業者選定</p> <p>平成30年度～平成32年度 基本・実施設計、地質調査等</p> <p>平成31年度 仮設校舎設計・工事</p> <p>平成32年度 校舎解体工事</p> <p>平成33年度～平成35年度 校舎等改築工事</p> <p>平成36年度 外構・グラウンド整備工事 仮設校舎・屋内運動場解体工事</p> <p>供用開始予定 平成36年4月</p>

○耐震補強工事の内容について

- 耐震補強工事の概要は下表のとおり。
 なお、当時は、平成26年度に校舎改築する計画としていたため、必要最小限の施工としたもの。

実施年	工事費 (税抜:円)	主な工事内容
平成18年 (H18.11.24竣工)	93,500,000	○鉄筋コンクリート耐震壁 ○スリット壁 ○鉄骨ブレース ○コンクリートブロック壁補強鉄骨柱等の設置
平成20年 (H20.1.25竣工)	81,313,000	○スリット壁・鉄骨ブレースの設置 ○開口閉塞

- 技術的な面での老朽化の程度について
- 校舎の築年数からみた宮城第一高等学校校舎の位置付けについて

- 県有建築物の定期的な点検の概要は下表のとおり。
 これらの点検結果を踏まえ、技術的な老朽化について判断した。

学校名	点検内容	実施年度	土木部による目視等による現地調査の結果概要
宮城第一高校	県有建築物劣化度調査	平成18年度	コンクリート躯体のひび割れや、外壁からの雨漏れが確認され、構造体や外壁の危険度及び劣化度が最大値の判定であった。

- 校舎が築後45年以上の高等学校は11校あり、経過年数及び現地調査の結果を踏まえ、順次改築を計画的に進めている。詳細は下表のとおり。

築後45年以上の高等学校（平成29年4月1日現在）

学校名	築後年数	備考
松島(北校舎)	52	南・東校舎(築後35年)と併せて改築予定。
石巻好文館	49	H32.4月新築予定。
柴田農林	48	H35.4月新築(統合)を審議中。
宮城第一	48	男女共学化対応のため、平成26年度着手予定だったが、東日本大震災の影響により遅れている。
佐沼	48	
志津川	48	
岩出山	47	
東松島	47	
古川	46	
涌谷	45	
加美農業	45	
計11校		